

犬猫化したAqoursとの 日常

イオ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

気がついたら朝、玄関に犬と猫が9匹入っているダンボールが置かれていた。
そんな僕と9匹のA q o u r s 犬猫ちゃんとの日常

目次

僕は9匹拾った

1

観察日記 ようちか編

5

僕は9匹拾った

気がついたら朝、玄関に犬と猫が9匹入っているダンボールが置かれていた。

ニャーニャーとワンワンと何かを伝えようと吠えてるのだが、人間にはわかるはずもない。

「9匹って多いな………」

玄関で僕は頭を抱えた。

1匹2匹位ならまだ飼える。多分

でも9匹。多い。

でもそのまま放つて置くのも可愛そうだし……

玄関に座り、同じ目線になり優しく1匹1匹撫でる。

気持ちよさそうに撫でられるもの。

撫でて！撫でて！と頭を自分からこちらに差し出し目を細めて、撫でられるもの。

やめて！と言いたげに振りほどこうとするもの。この種類は撫でるのも辞めると途端に悲しそうに鳴く。

こちらに飛びかかるように抱きついてきた犬猫もいた。

優しく抱き締めると嬉しそうに鳴いた。

なんとも可愛らしい。

そうだ、飼い犬とか飼い猫なら首輪付してるかも shouldn't.

オレンジの色の毛をした子犬を持ち上げ、身体の間々まで探す。

首輪は着いていなかった。

その代わりと言うのか名札の様な物がぶら下がっていたのだ。

手に取って読んでみる

『ちか』

名札に震えた文字で書かっていた。

「もしかして……………」

他の8匹の子も見てみる。

やはり同じ様に名札が着いていた。

よう(犬)、りこ(犬)、かなん(犬)、だいや(猫)、まり(犬)、はなまる(猫)、る

びい(犬)、そして、よしこ(猫)。

犬が6匹、猫が3匹。計9匹のこの子達の名前が分かった訳だ。

でも何故かよしこだけヨハネと上書きがされていた。

間違えたのかなあ……………？

名前を試しに呼ぶか。

「よしこ、おいで、よしこ……いつてえ！」

よしこと言ったら段ボールから飛び出し、腕へと噛み付いてきた。

ガルルと威嚇をし、よしこという名前の猫は歯を腕にくい込ませた。

「分かった分かった、よしこじゃなくてヨハネだな、ヨハネ離して！」

すると、歯を腕から離した。

腕には噛み跡があり、そこから血が滲んでいる。

後でカットバン貼るか。

腕をさすっていると、りこがさっきのよしこをペシペシと優しく叩いて、きやんきや

んと吠えて怒っていた。

ちやんとしつけられてる子達だ。

いや、普通に考えて犬が猫をしつけてるっておかしいな

あとはこの子達をどうするか。

飼うべきか飼わざるべきか。飼うのだったら犬や猫にも命はあるのだから、ちやんと

責任をもって最後まで育てなければならぬ。

それが僕にできるかの不安。

でも、こんなにいい子だし昔からペットは欲しいと思っていたので、丁度いいかもし

れない。

僕なりに精一杯育ててみよう。

「これから君達を飼うことにした。今日から家の一員だ。よろしくな」

日本語は分かるはずがないだろうけど、尋ねる。

まるで理解したかの様に9匹の犬猫は、1つ鳴いた。

これが僕と彼女達、9匹の犬と猫に会う出会いだった。

観察日記 ようちか編

今日から観察日記的な物をしようと思う。

日記は付けないから観察か。

まずあいつら9匹の事を全く分かってないから、知らねばならないのだ。飼い主として。

??? (?.?.?.? 三 ???.?.?)?

朝、自分の布団に何かモコモコとする暖かい物があると感じた。そして何ならちよつと重さを感じる。

布団を捲つて確かめてみると、そこには僕に寄り添つて、ちかとようの2匹がいた。

「またこいつらか………」

この二匹はよく僕の布団に潜ってくる。

皆結構潜ってくるけど、1番多いのが”ちか”と”よう”だ。

2人寄り添つて僕の胸にくるまっている。

寒いのか少し震えるような仕草をして、更に僕にくつついて来た。

可愛い奴め。

可愛さで目が覚めたので布団から出ようとするのと二匹は僕のパジャマの裾をぎつちりと掴んでいた。

優しくそれを外し、皆に朝ごはんを準備する。

拾ってきたその日、僕は急いでペットシヨップへと走り、犬と猫用の餌を沢山買ってきた。

9つ、皿に餌を乗せて目の前に置いていく。

起き終わったら、自分の餌の準備

味噌汁を飲みながら、9匹の食べている様子を見てみると、皆お腹がすいていたのかガツガツと食べていた。

僕は最後デザート代わりに蜜柑を食べながらテレビを見ているとズボンの裾を誰か引っ張っているのに気づいた。

テーブルの下を覗くと、“ちか”が物欲しそうな顔でこちらを見ている。

目の前にミカンを一粒、差し出し左右に動かすとそれに伴って“ちか”の顔が動いて面白い。

「ミカン、欲しいのか？」

「わん！」

元氣よく吠える“ちか”

一粒、手に乗せて口の前に差し出すと、勢いよく飛びつき、むしやむしやと食べ始めた。

もしかしたら、「ちか」の好物は蜜柑なのかもしれない。

食べ終わって、手にはもうミカンは乗っていないのにペロペロと手を舐める。

「蜜柑、気に入ったのか!」

「わん! わん!」

もう一個、もう一個とせがむ様に「ちか」が鳴くのもう一個取り出して目の前に差し出す。

それがある影が攫っていく。手を見てみると乗っていた蜜柑は無くなっていた。

「くうくん」

悲しそうに泣く千歌

「わん!」

鳴いた方を見てみれば「よう」だった。

「お前が犯人か〜!」

「案外「よう」と「ちか」は寂しがり屋で構ってくれないとこういう事で気を引こうとする。」

それがたまらなく可愛い。

うりうりくと”よう”を撫で回す。

気持ちよさそうに目を細めてワンワンと鳴く。

「次は”ちか”の取っちやダメだぞ。”よう”」

「わん！」

「本当に分かつてるのか〜?」

一応躰だけはちゃんとしておかないとな。

”よう”に注意を一応するが多分構って欲しくて

またやるのだろう。

少しずつ教えていこう。

今日の観察日記

ちかとようは可愛い